

Generic ARK for Zabbix 使用説明書

第 2 版



目次

概要	3
注意事項	4
パッケージのインストール	5
LifeKeeper 本体のインストール	6
Zabbix 関連パッケージのインストール	6
Generic ARK for Zabbix、Zabbix モニターパッケージのインストール	7
クラスタの設定	10
ファイルシステムリソースの設定及びスイッチオーバーの確認	10
MySQL データベースの設定	11
Zabbix の設定	14
Zabbix サービスの単体動作確認	14
リソースの設定	15
ファイルシステム・リソースの作成	15
IP リソースの作成	15
Generic Application リソース(MySQL データベース)の作成	16
Generic Application リソース(Zabbix サーバ)の作成	17
Generic Application リソース(httpd サーバ)の作成	17
リソースの依存関係の設定	18
動作確認	20
Zabbix サービスが稼働していることを確認	20
スイッチオーバーの確認	21
付録	24
Generic ARK for Zabbix の監視内容	24
ログのフォーマット	26

zabbix_monitor.conf 内各変数の説明	26
免責事項	30

改訂履歴

2014年7月3日	初版	
2016年1月5日	2版	LifeKeeper for Linux v9.0.1、Zabbix 2.4 対応に伴うドキュメントの修正/追記

概要

このドキュメントは Generic ARK for Zabbix を取扱う説明書です。本説明書は LifeKeeper のシステム管理者知識があることを前提に書かれております。

下図 1、2 のように、Generic ARK for Zabbix を利用した Zabbix サービスの冗長化は 2 ノードクラスタの Active-Standby 構成のみをサポートします。よって、一般的にはサーバ 2 台とそれぞれ 2 本の通信経路、対外サービス用のネットワークインターフェイスは最低一本で構成されます。また、データの共有は共有ストレージまたはレプリケーションディスクのどちらでも構いません。

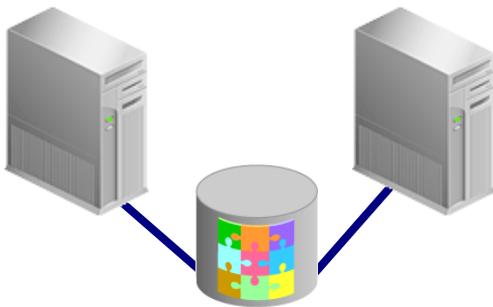


図 1 共有ストレージ型クラスタ

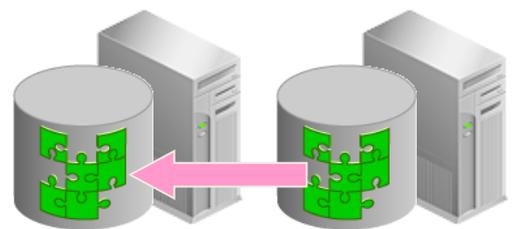


図 2 レプリケーション型クラスタ

Generic ARK for Zabbix は LifeKeeper for Linux と組み合わせて Zabbix サービスの可用性向上を実現するため機能を提供します。具体的には、Generic ARK for Zabbix を使用することによって、LifeKeeper for Linux 本体が持つノードおよび仮想 IP アドレス、ファイルシステムの監視やリカバリー動作に加え、Zabbix および Zabbix 関連サービス監視とリカバリー動作が可能となります。

各クラスタノードに LifeKeeper、Generic ARK for Zabbix、Zabbix 関連パッケージ、MySQL、Apache をインストールする必要があります。Generic ARK for Zabbix 以外のインストール詳細については各ソフトウェアの使用説明書を参照してください。

注意事項

- 対応 OS について
2016 年 1 月現在は Red hat Enterprise Linux 6.x, CentOS 6.x に対応しています。
- 対応 LifeKeeper バージョンについて
LifeKeeper for Linux のバージョンは v8.x, v9.x 系に対応しております。
- 対応 Zabbix および Zabbix 関連ソフトウェアバージョンについて
Generic ARK for Zabbix が対応している Zabbix および Zabbix 関連ソフトウェアは Zabbix 2.2.x、Zabbix 2.4.x、MySQL 5.1.x、Apache 2.2.x となります。

MySQL は OS 同梱または Red Hat/CentOS のレポジトリの物を使用し、コミュニティ版は使用しないでください。また、RHEL6.5 初期リリースの mysql-5.1.71-1 には init スクリプトにバグがあるため最新バージョンを利用してください。

- 対応ハードウェアについて
対応ハードウェアは LifeKeeper 本体に依存します。共有ストレージを使用する場合は LifeKeeper が対応する製品を使用してください。
- AWS EC2 環境について
AWS EC2 環境については 2016 年 1 月現在、Single Server Protection for Linux のみ対応しております。LifeKeeper for Linux に関しては動作保証外となります。

パッケージのインストール

Generic ARK for Zabbix に必要なパッケージは各クラスターノードにおいてそれぞれ次の順番でインストールします。

1. LifeKeeper 本体のインストール (LifeKeeper のインストール説明書)
2. MySQL、Apache パッケージのインストール (rpm コマンド使用)
3. Zabbix パッケージのインストール (Zabbix 導入手順書)
4. Generic ARK for Zabbix、Zabbix モニターパッケージのインストール (本説明書)

LifeKeeper 本体のインストール

Generic ARK for Zabbix パッケージをインストールする前に、LifeKeeper 本体が事前にインストールされていることが必要です。LifeKeeper のインストール手順については、LifeKeeper 本体付属のドキュメントをご参照ください。

Zabbix 関連パッケージのインストール

Zabbix を利用する場合は SELinux を無効にしてください。SELinux の状態確認は以下のように行います。

```
# getenforce
Disabled
```

上記のコマンドの結果が Disabled となっていれば SELinux は無効となっています。以下のパッケージを任意のディレクトリに配置します。（なお、LifeKeeper のインストール要件においても、SELinux は無効である必要があります。）

```
zabbix-server-*
zabbix-*
zabbix-web-mysql-*
zabbix-web-*
zabbix-agent-*
zabbix-server-mysql-*
fping
libssh2
iksemel
```

各パッケージを配置したディレクトリに移動し、以下のコマンドでインストールをします。

```
# rpm -ivh zabbix-* fping* libssh2* iksemel*
```

Generic ARK for Zabbix、Zabbix モニターパッケージのインストール

Zabbix モニターは Generic ARK for Zabbix 内部から呼ばれています。通常は RPM パッケージの形で配布されるので RPM コマンドでインストールします。

Zabbix2.2 以降では zabbix-monitor-1.0.2-1.el6.x86_64.rpm 以降のパッケージを使用してください。

```
$rpm -ivh zabbix-monitor-x.x.x-x.el6.x86_64.rpm
```

インストール後、/etc/zabbix/zabbix_monitor.conf のデフォルト内容を実際の環境に合わせて変更してください。

```
[root@lk-1a ~]# cat /etc/zabbix/zabbix_monitor.conf
#####
##
# default setting
#####
##
#mysql_binary_fullpath=/usr/libexec/mysqld
#http_binary_fullpath=/usr/sbin/httpd
#zabbix_binary_fullpath=/usr/sbin/zabbix_server_mysql
#zabbix_timeout=3
#zabbix_retry=3
#zabbix_db_user=zabbix
#zabbix_db_password=zabbix_password
#zabbix_db_dbname=zabbix
#zabbix_db_host=localhost
#zabbix_db_port=3306
#zabbix_server_host=localhost
#zabbix_server_port=10051
#zabbix_web_url=http://localhost/zabbix/
#####
##

#####
##
# process path setting
#####
##
## Sample: set full path to each binaries
mysql_binary_fullpath=/usr/libexec/mysqld
http_binary_fullpath=/usr/sbin/httpd
zabbix_binary_fullpath=/usr/sbin/zabbix_server_mysql
```

```
#####  
##  
# Timeout and retry setting  
#####  
##  
  
## Sample: up to 3 sec and 3 retry  
zabbix_timeout=3  
zabbix_retry=3  
  
#####  
##  
# Zabbix DB setting  
#####  
##  
## Sample: setting DB info. socket setting is optional.  
zabbix_db_user=zabbix  
zabbix_db_password=zabbix_password  
zabbix_db_dbname=zabbix  
zabbix_db_host=localhost  
zabbix_db_port=3306  
zabbix_db_socket=/var/lib/mysql/mysql.sock  
  
#####  
##  
# Zabbix server host setting  
#####  
##  
## Sample: setting zabbix server info. DNS name, IPv4 and IPv6 are allowed for  
host name.  
zabbix_server_host=localhost  
zabbix_server_host=127.0.0.1  
#zabbix_server_host>:::1  
zabbix_server_port=10051  
  
#####  
##  
# Zabbix web server setting  
#####  
##  
## Sample: setting zabbix login page.  
zabbix_web_url=http://localhost/zabbix/
```

Generic ARK for Zabbix は Zabbix-ARK-scripts-x.x.x.tar.gz という形で提供されます。
まず、ホームディレクトリ配下にパッケージを展開します。

```
$ tar zxvf Zabbix-ARK-scripts-1.0.0.tar.gz
LK_ARK_zabbix_http/
LK_ARK_zabbix_http/recover
LK_ARK_zabbix_http/quickCheck
LK_ARK_zabbix_http/restore
LK_ARK_zabbix_http/remove
LK_ARK_zabbix_mysql/
LK_ARK_zabbix_mysql/recover
LK_ARK_zabbix_mysql/quickCheck
LK_ARK_zabbix_mysql/restore
LK_ARK_zabbix_mysql/remove
LK_ARK_zabbix_zabbix_server/
LK_ARK_zabbix_zabbix_server/recover
LK_ARK_zabbix_zabbix_server/quickCheck
LK_ARK_zabbix_zabbix_server/restore
LK_ARK_zabbix_zabbix_server/remove
```

これらのスクリプトは LifeKeeper の GUI コンソールから登録します。方法については「リソースの設定」の章を参照してください。

クラスタの設定

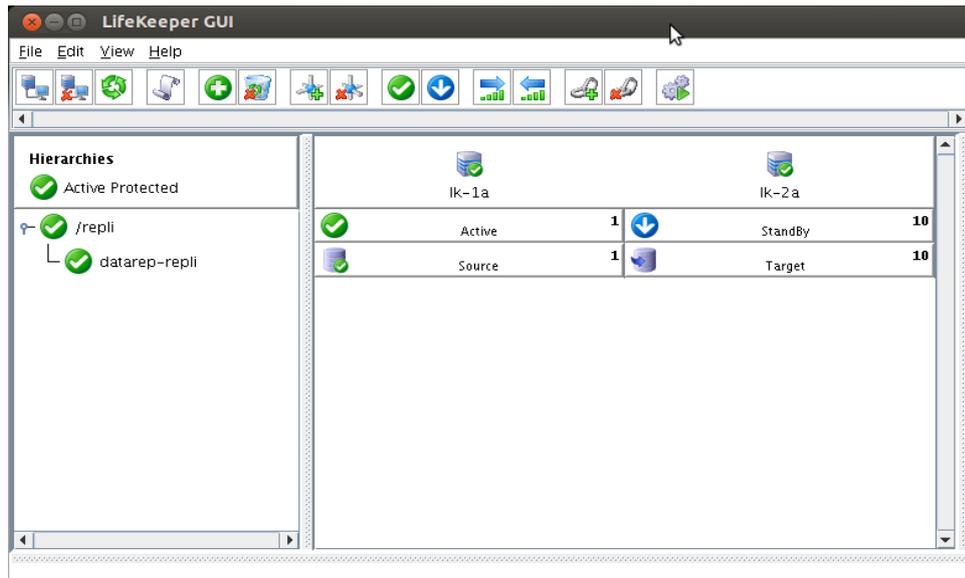
MySQL, Apache, Zabbix のインストールを完了したあと、クラスタの状態で作動できるように事前に設定を行います。ここでは、図 2 のレプリケーションディスク型クラスタを例として設定内容を取り上げますが、そのまま引用して実システムに使用することはお勧めしません。次の手順で設定を行います。

1. ファイルシステムリソースの設定及びスイッチオーバーの確認
2. MySQL データベースの設定及びスイッチオーバーの確認
3. Zabbix の設定
4. Zabbix サービス単体動作の確認

ファイルシステムリソースの設定及びスイッチオーバーの確認

この資料ではファイルシステムリソースに、共有ストレージを使用しないレプリケーションディスクを使用します。LifeKeeper でレプリケーションディスクを使用してクラスタを構成する場合には、DataReplication リソースを作成します。

各サーバにはレプリケーション用ディスクを事前に用意し、LifeKeeper の GUI コンソールから DataReplication リソースを設定します。DataReplication リソースの設定方法や必要要件等については、LifeKeeper のマニュアルを参照してください。また、ここで事前にリソースのスイッチオーバー（手動での切り替え）ができることを確認しておいてください。スイッチオーバーの操作方法については、LifeKeeper のドキュメント等をご確認ください。下図はレプリケーションリソース設定が完了した状態の画面例です。



アクティブ側ホストでファイルシステムのマウント状況を確認すると、レプリケーションディスクを/repli にマウントしていることが分かります。

```
[root@lk-1a ~]# df
Filesystem          1K-ブロック   使用   使用可 使用% マウント位置
/dev/sda1           20642428    4970052 14623800 26% /
tmpfs                970056         88    969968  1% /dev/shm
/dev/md0             5156292      739780  4154584 16% /repli
```

アクティブノードでマウント状態を確認した後、リソースをバックアップノードへスイッチオーバーさせてください。切り替えに成功した後、切り替え先のバックアップノードでも正常にマウントされていることを確認してください。

バックアップノードへのスイッチオーバーができることを確認した後、再度リソースを元のサーバへスイッチオーバーさせてください。

MySQL データベースの設定

MySQL データベースの設定はクラスタ構成のない場合と同じです。内容は/etc/my.cnf、Zabbix のアクセス用 root パスワード、データベースそして文字コードの設定などがあります。詳細については Zabbix 導入手順書を参照してください。この例で注意が必要なところはデータベース本体を先ほど設定したレプリケーションディスクに配置することです。

アクティブ側でデータベース本体が置かれる/var/lib/mysql が/repli にリンクされていることを確認します。

```
[root@lk-1a ~]# ls -l /var/lib/ | grep mysql
lrwxrwxrwx 1 mysql mysql 6 2012-07-10 21:20 mysql -> /repli
```

アクティブ側のホスト1にて mysqld を起動します。

```
[root@lk-2a ~]# service mysqld start
MySQL データベースを初期化中: Installing MySQL system tables...
OK
Filling help tables...
OK

To start mysqld at boot time you have to copy
support-files/mysql.server to the right place for your system
:
[ OK ]
mysqld を起動中: [ OK ]
```

アクティブ側の/var/lib/mysql 配下にデータファイルがあることを確認します。

```
[root@lk-1a ~]# ls -l /var/lib/mysql
合計 597512
-rw-rw---- 1 mysql mysql 268435456 2012-08-14 19:05 ib_logfile0
-rw-rw---- 1 mysql mysql 268435456 2012-08-14 19:05 ib_logfile1
-rw-rw---- 1 mysql mysql 10485760 2012-08-14 19:05 ibdata1
drwx----- 2 mysql root 4096 2012-08-14 19:04 mysql
srwxrwxrwx 1 mysql mysql 0 2012-08-14 19:05 mysql.sock
drwx----- 2 mysql root 4096 2012-08-14 19:04 test
```

スタンバイ側の/var/lib/mysql 配下にデータファイルがないことを確認します。

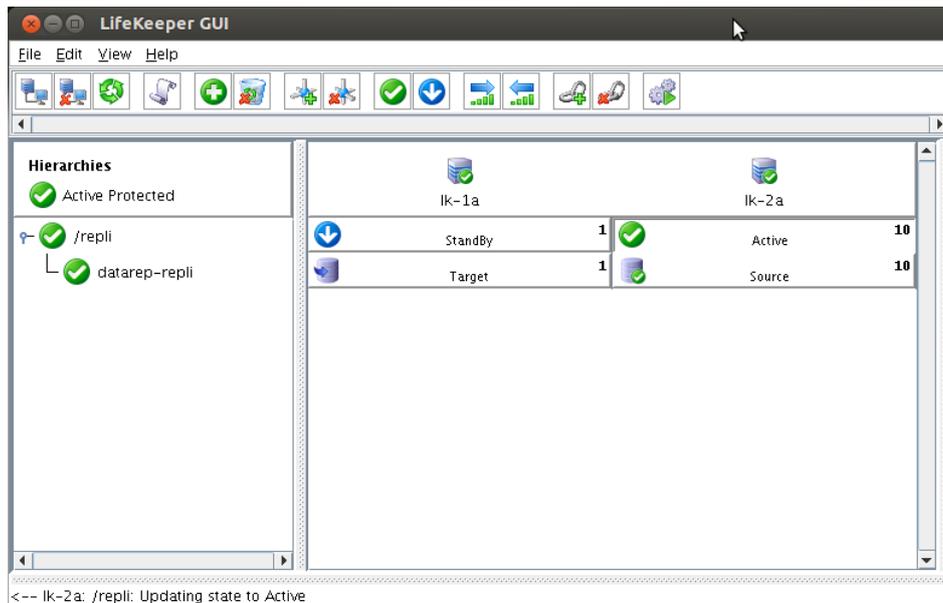
```
[root@lk-2a ~]# ls -l /var/lib/mysql
合計 0
```

もう一方のノードでも MySQL が起動ができるか確認するため、アクティブ側の mysqld を止めます。

```
[root@lk-1a ~]# service mysqld status
mysqld (pid 32419) を実行中...
[root@lk-1a ~]# service mysqld stop
mysqld を停止中: [ OK ]
[root@lk-1a ~]# service mysqld status
```

```
mysql は停止しています
```

MySQL の停止を確認した後、レプリケーションディスクをバックアップノードへスイッチオーバーさせます。操作方法については LifeKeeper のマニュアルを参照してください。下図はスタンバイ側にスイッチオーバーした後の状態です。



次にスタンバイ側で `mysql` を起動します。

```
[root@lk-2a ~]# service mysql status
mysql は停止しています
[root@lk-2a ~]# service mysql start
mysql を起動中: [ OK ]
```

バックアップノードでも MySQL が起動でき問題が発生しなければ、LifeKeeper で MySQL リソースを作成して制御対象とするための準備が整ったといえます。次の手順に移る前にリソースを元のサーバへリソースを戻すため、バックアップノードで起動した MySQL を停止して、レプリケーションディスクを元のサーバへスイッチオーバーしてください。

Zabbix の設定

MySQL のデータベース以外は設定ファイルやログの共有が不要です。Zabbix の設定はプライマリーノードとバックアップノード両方で行う必要があります。また、各サーバ上の設定ファイルの内容は必ず同じでなければなりません。Apache、MySQL を含めた設定の詳細は Zabbix 導入手順書を参照してください。

Zabbix サービスの単体動作確認

ここまでですべての設定が完了しました。アクティブサーバ側で Zabbix サービスが動作することを確認してください。確認方法は通常のブラウザからアクティブサーバの IP アドレスに対して `http://<host の IP アドレス>/zabbix` をアクセスします。Zabbix のログイン画面が表示されれば、単体稼働が確認できます。

リソースの設定

LifeKeeper の GUI コンソールからリソースを作成していきます。リソースは LifeKeeper の監視及び制御するリソースの単位です。Generic ARK for Zabbix は httpd, zabbix-server, mysqld を監視・制御する三種類のスクリプトから構成されます。実際に使用する場合は他のリカバリキットを含め、以下のような作業が必要になります。

1. ファイルシステムリソースの作成
2. IP リソースの作成
3. Generic Application リソース(MySQL データベース)の作成
4. Generic Application リソース(Zabbix サーバ) の作成
5. Generic Application リソース(Apache サーバ)の作成

ファイルシステム・リソースの作成

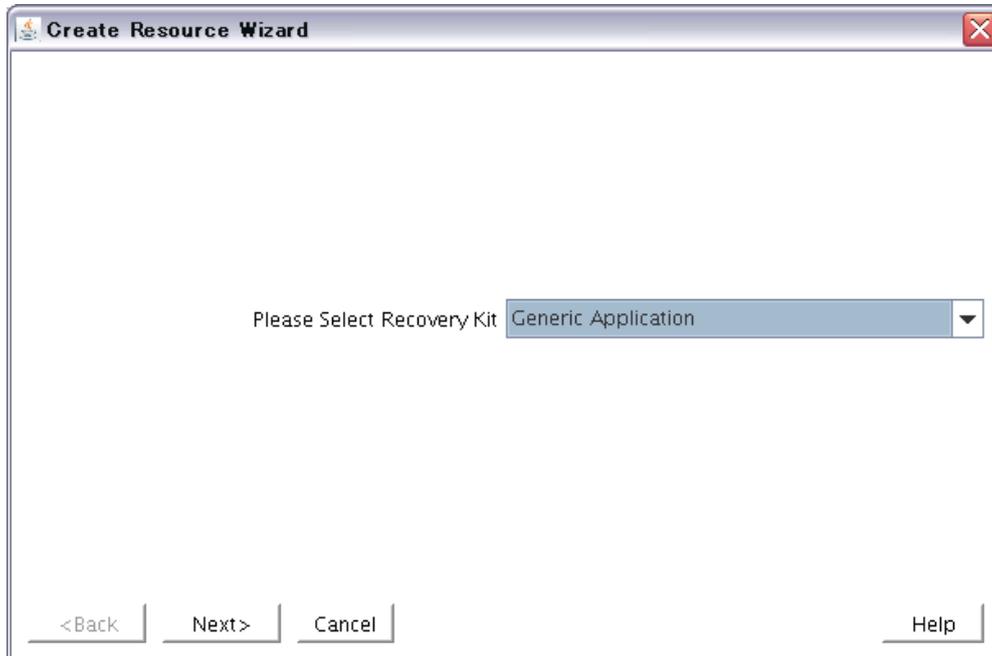
本書ではレプリケーションディスクについての例がありますが、既に設定済みの場合は、読み飛ばしてください。共有ストレージ及びレプリケーションディスク上のファイルシステム・リカバリキットの設定については、メニューから「Edit → Server → Create Resource Hierarchy」で表示された Create Resource Wizard から Recovery Kit で Filesystem または Data Replication を選択し、画面の指示に従い、リソースを作成してください。ファイルシステムリソースの作成に関する要件やその他詳細については、LifeKeeper 使用説明書または、オンラインドキュメントを参照してください。

IP リソースの作成

IP リソースを作成すると、HA クラスタ間で切り替え可能な仮想 IP アドレスを作成することができます。ここで作成するする仮想 IP アドレスはクライアントが Zabbix サーバに接続するための IP アドレスとなります。IP リソースは LifeKeeper の GUI コンソールから作成します。メニューから「Edit → Server → Create Resource Hierarchy」で表示された Create Resource Wizard から Recovery Kit で IP を選択し、画面の指示に従い、リソース作ってください。IP リソース作成のための要件やその他詳細については LifeKeeper のマニュアルをご確認ください。

Generic Application リソース(MySQL データベース)の作成

Create Resource Wizard から「Generic Application」 Recovery Kit として登録します。



restore , recover, remove スクリプトはそれぞれ Generic ARK for Zabbix が展開された場所のファイルを入力します。

スクリプト名	場所
Restore	<Generic ARK for Zabbix 展開先>/LK_ARK_zabbix_mysql/restore
Remove	<Generic ARK for Zabbix 展開先>/LK_ARK_zabbix_mysql/remove
QuickCheck	<Generic ARK for Zabbix 展開先 >/LK_ARK_zabbix_mysql/quickCheck
Recovery	<Generic ARK for Zabbix 展開先>/LK_ARK_zabbix_mysql/recover
Resource Tag	zabbix_mysql (タグ名は固定)

Generic Application リソース(Zabbix サーバ)の作成

Create Resource Wizard から“Generic Application” Recovery Kit として登録します。
restore, remove, quickCheck, recover スクリプトはそれぞれ Generic ARK for Zabbix
が展開された場所のファイルを入力します。

スクリプト名	場所
Restore	<Generic ARK for Zabbix 展開先> /LK_ARK_zabbix_zabbix_server/restore
Remove	<Generic ARK for Zabbix 展開先> /LK_ARK_zabbix_zabbix_server/remove
QuickCheck	<Generic ARK for Zabbix 展開先> /LK_ARK_zabbix_zabbix_server/quickCheck
Recovery	<Generic ARK for Zabbix 展開先> /LK_ARK_zabbix_zabbix_server/recover
Resource Tag	zabbix_zabbix_server (タグ名は固定)

Generic Application リソース(httpd サーバ)の作成

Create Resource Wizard から“Generic Application” Recovery Kit として登録します。
restore , remove, quickCheck, recover スクリプトはそれぞれ Generic ARK for Zabbix
が展開された場所のファイルを入力します。

スクリプト名	場所
Restore	<Generic ARK for Zabbix 展開先 >/LK_ARK_zabbix_http/restore
Remove	<Generic ARK for Zabbix 展開先 >/LK_ARK_zabbix_http/remove
QuickCheck	<Generic ARK for Zabbix 展開先> /LK_ARK_zabbix_http/quickCheck
Recovery	<Generic ARK for Zabbix 展開先 >/LK_ARK_zabbix_http/recover
Resource Tag	zabbix_http (タグ名は固定)

GenericARK の利用やウィザードの内容の詳細については、LifeKeeper のマニュアル等をご
確認ください。

リソースの依存関係の設定

ここまでで作成した各リソースに依存関係を作成する必要があります。依存関係は下記のような起動と停止順序となるように設定してください。

- 起動順：ファイルシステムのマウント → mysqld の起動
→ zabbix-server の起動 → httpd の起動 → VIP の有効化
- 終了順：VIP の無効化 → httpd の終了 → zabbix-server の終了
→ mysqld の終了 → ファイルシステムのアンマウント

以下は上記を考慮した上で、設定したリソースの依存関係の例となります。

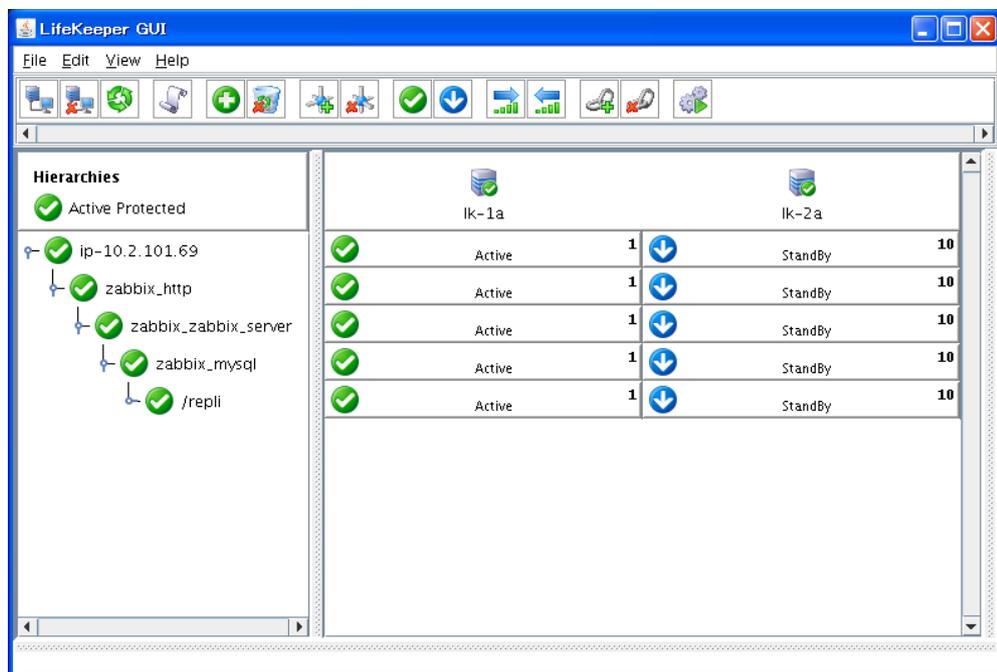


図 3

この依存関係を作成することによって、前述の順序で起動と停止が行われます。

リソースの依存関係を作成するには、下図 3 のように画面左側のリカバリキット上にマウスを置き、右ボタンをクリックし、Create Dependency を選択し、画面の指示に従い、作成していきます。

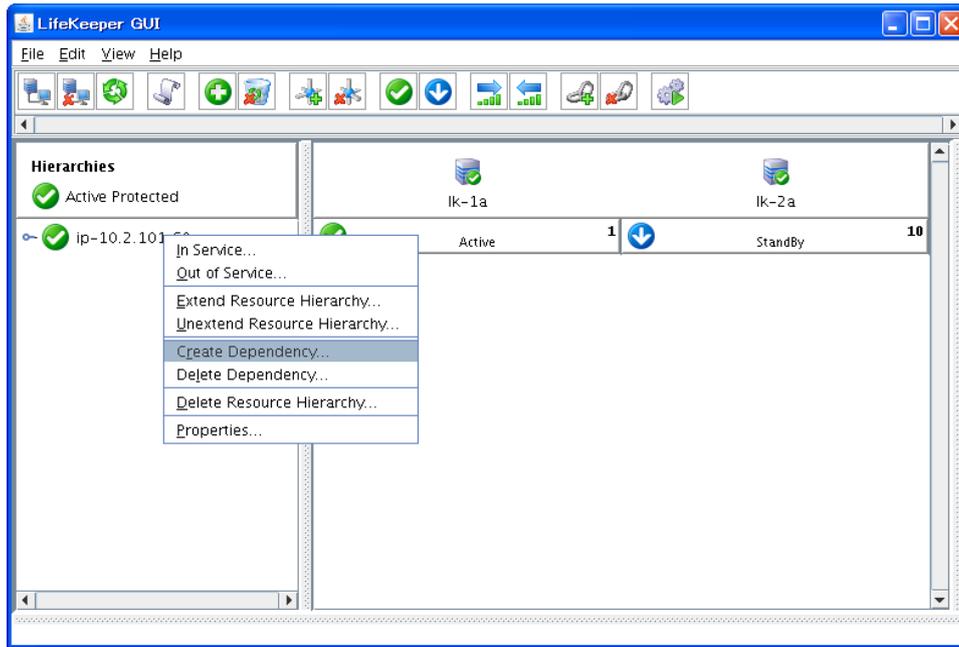


図 4

依存関係の詳細については LifeKeeper のマニュアル等を参照してください。

動作確認

1. Zabbix サービスが稼働していることを確認
2. スイッチオーバー（フェイルオーバー）の確認

Zabbix サービスが稼働していることを確認

VIP に対して Web ブラウザからアクセスし、監視内容が表示されることを確認します。下図 5 のように Zabbix の管理画面にログインできて、監視内容が表示されることを確認します。

The screenshot shows the Zabbix web interface. The main content area is titled 'Zabbixサーバーの状態' (Zabbix Server Status). It contains a table with the following data:

パラメータ	値	詳細
Zabbixサーバーの起動		
ホスト数 (有効/無効/テンプレート)		
アイテム数 (有効/無効/取得不可)		
トリガー数 (有効/無効 [障害/正常])		
ユーザー数 (オンライン)		
1秒あたりの監視項目数 (Zabbixサーバーの要求パフォーマンス)		

Below the table, the '更新時刻' (Update Time) is shown as 11:29:46. There are also buttons for 'システムステータス', 'ホストステータス', '最新 20 件の障害', and 'Web監視'.

図 5

スイッチオーバーの確認

全リソースが切り替えられるかをテストするために、スイッチオーバーテストをします。下図 5-1 のようにスタンバイホスト(lk-2a 側)の IP リソースの上にマウスを置き、右クリックしてメニューから In Service を選びます。

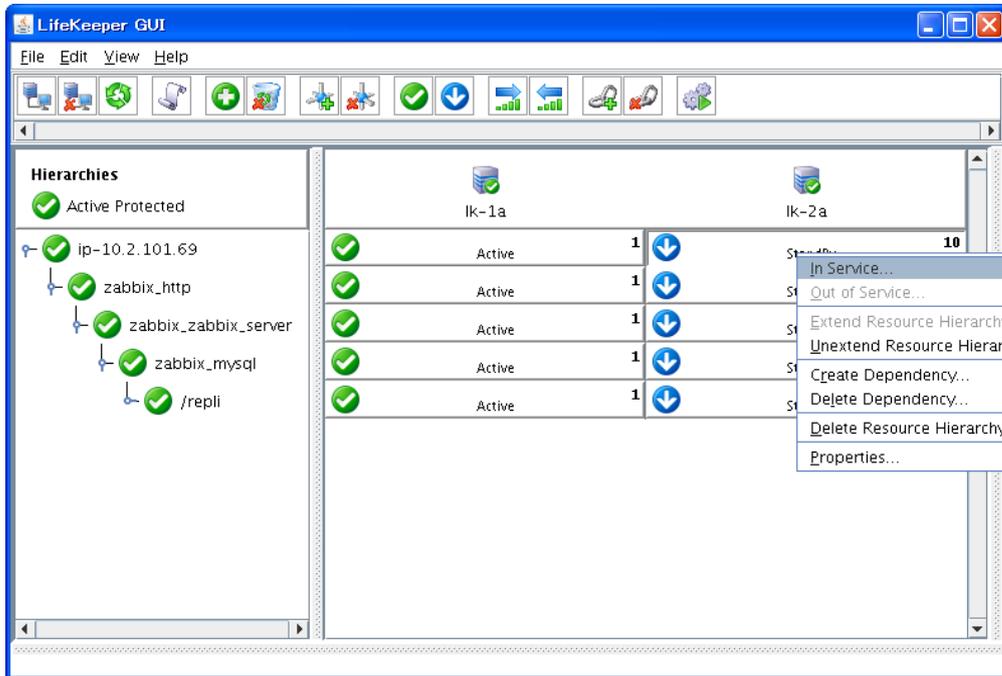


図 5-1

下図 5-2、5-3 のように、さらに出てきたダイアログウインドウの In Service を選びます。

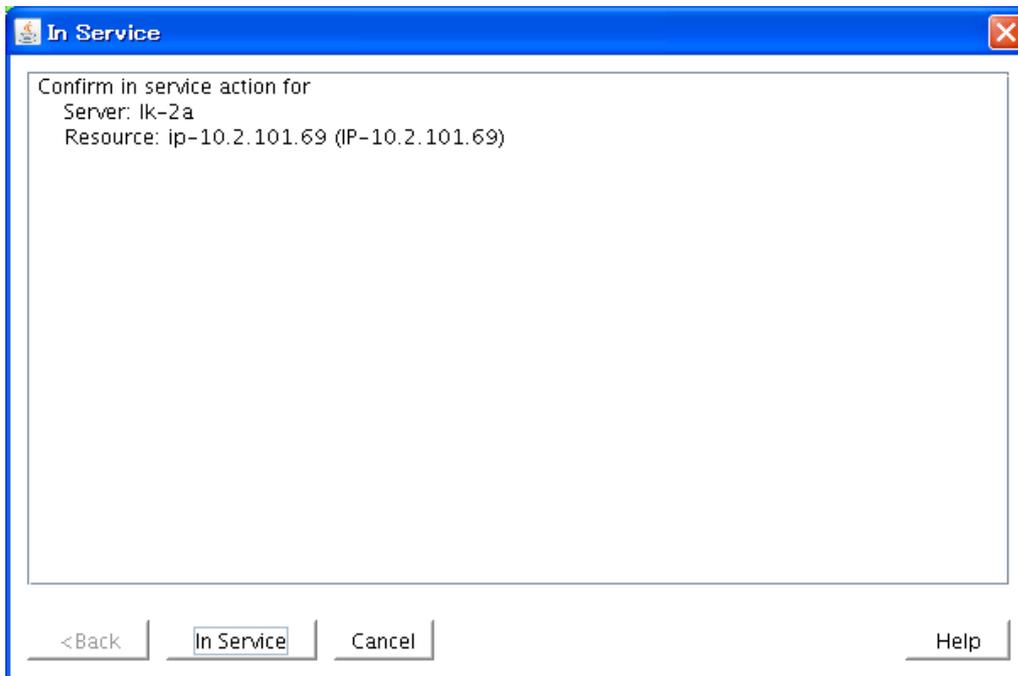


図 5-2

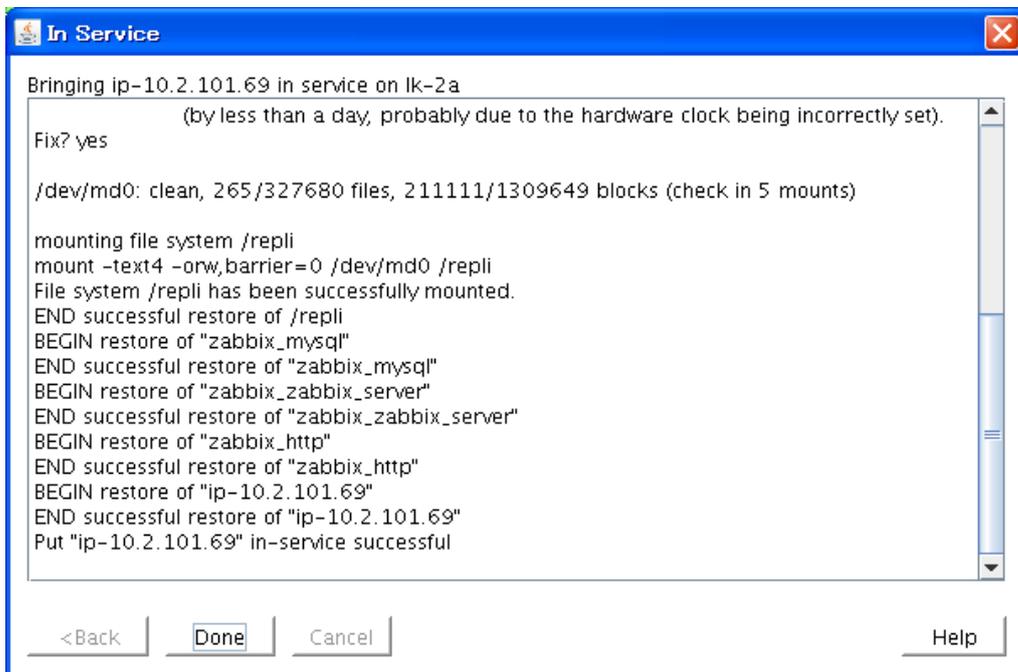


図 5-3

手動によるファイルオーバーが成功した場合は図 5-4 のよう画面になります。Zabbix サービス関連リソースは階層が保ったまま、新たなアクティブサーバに移行され、サービスを続行します。

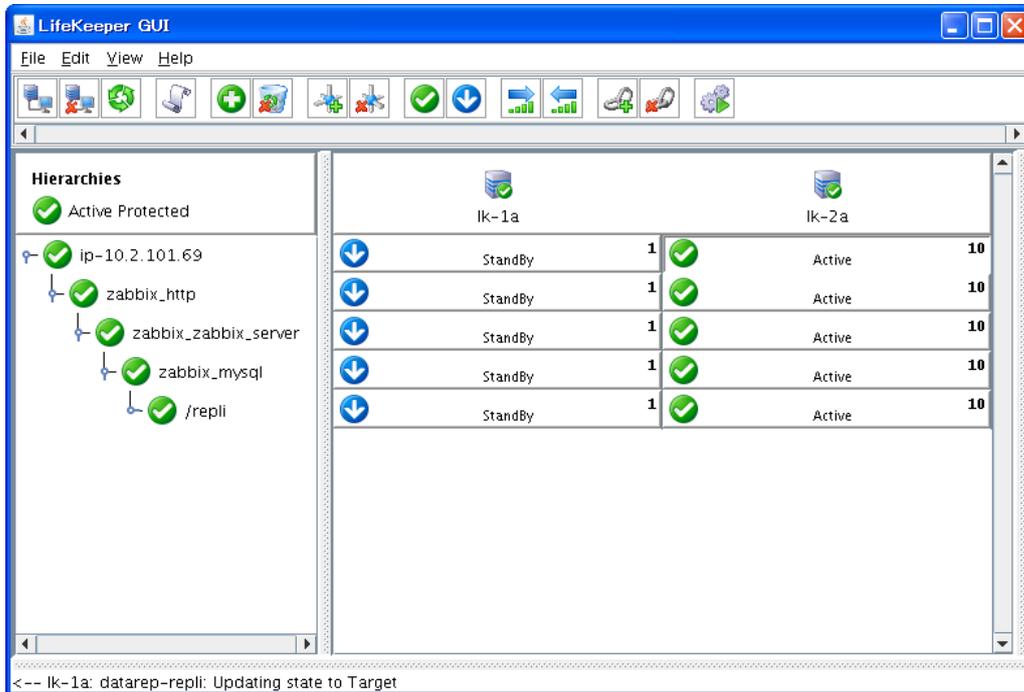


図 5-4

手動での切り替え動作を確認した後、必要に応じて疑似障害を起こすなどしてフェイルオーバー（障害検知による自動切り替え）のテストを行ってください。

付録

Generic ARK for Zabbix の監視内容

各監視エージェントの監視内容は下記表をご参照ください。

- LK_ARK_zabbix_http (Web サーバ)監視エージェント

スクリプト名	内容	タイムアウト	備考
quickCheck	httpd プロセス死活監視	22 秒	ログはINFOとERRORの2種類あり、/var/log/messages にそれぞれ出力される。
recover	httpd プロセス再起動	22 秒	
remove	httpd プロセス強制停止	22 秒	
restore	httpd プロセス起動	22 秒	

- LK_ARK_zabbix_zabbix_server(Zabbix サーバ)監視エージェント

スクリプト名	内容	タイムアウト	備考
quickCheck	zabbix-server プロセス死活監視	22 秒	ログはINFOとERRORの2種類あり、/var/log/messages にそれぞれ出力される。
recover	zabbix-server プロセス再起動	22 秒	
remove	zabbix-server プロセス強制停止	22 秒	
restore	zabbix-server プロセス起動	22 秒	

● LK_ARK_zabbix_mysql (MySQL server)エージェント

スクリプト名	内容	タイムアウト	備考
quickCheck	mysqld プロセス死活監視、データベースアクセス監視	22 秒	ログはINFOとERRORの2種類あり、/var/log/messages にそれぞれ出力される。
recover	mysqld プロセス再起動	22 秒	
remove	mysqld プロセス強制停止	22 秒	
restore	mysqld プロセス起動	22 秒	

各スクリプトは LifeKeeper 本体から呼び出され、対象プロセスを監視します。正常な場合は戻り値 0 を LifeKeeper に返します。異常を検出した場合は LifeKeeper に 1 を返します。LifeKeeper はその戻り値によって、次のアクションを決定します。これらの GenericARK 自体の詳細につきましては、LifeKeeper のマニュアル等の情報をご参照ください。

ログのフォーマット

正常時ログのフォーマット

<日付><ホスト名> lklogmsg[PID]: INFO: zabbix :<スクリプト名>:<監視対象>:127000:メッセージ戻り値

ログ例

```
Aug 21 22:22:24 LK-1A lklogmsg[17031]:
INFO:zabbix:restore:zabbix_server:127000:[2012/08/21 22:22:24]
zabbix_zabbix_server : RESTORE START
```

異常時ログのフォーマット

<日付><ホスト名> lklogmsg[PID]: ERROR: zabbix :<スクリプト名>:<監視対象>:127001 メッセージ戻り値

ログ例

```
Aug 21 22:22:24 LK-1A lklogmsg[17035]:
ERROR:zabbix:restore:zabbix_server:127001:Check command returns 10
```

zabbix_monitor.conf 内各変数の説明

1) mysql_binary_fullpath

設定値 : mysqld 実行バイナリのフルパス

デフォルト : /usr/libexec/mysqld

設定例 : mysql_binary_fullpath = /usr/libexec/mysqld

2) http_binary_fullpath

説明 : httpd 実行バイナリのフルパス

デフォルト値 : /usr/sbin/httpd

設定例 : http_binary_fullpath = /usr/sbin/httpd

3) zabbix_binary_fullpath

説明 : zabbix_server 実行バイナリのフルパス

設定例 : zabbix_binary_fullpath=/usr/sbin/zabbix_server_mysql

4) zabbix_timeout

説明 : Zabbix 監視時のタイムアウト時

デフォルト値 : 3

設定例 : zabbix_timeout=3

5) zabbix_retry

説明 : Zabbix 監視時のリトライ回数

デフォルト値 : 3

設定例 : zabbix_retry=3

6) zabbix_db_user

説明 : Zabbix データベースへの接続ユーザ名

デフォルト値 : zabbix

設定例 : zabbix_db_user=zabbix

7) zabbix_db_password

説明 : Zabbix データベースへの接続パスワード

デフォルト値 : zabbix_password

設定例 : zabbix_db_password=zabbix_password

8) zabbix_db_dbname

説明 : Zabbix データベースへの接続 DB 名

デフォルト値 : zabbix

設定例 : zabbix_db_dbname=zabbix

9) zabbix_db_host

説明 : Zabbix データベースへの接続ホスト名

デフォルト値 : localhost

設定例 : zabbix_db_host= localhost

10) zabbix_db_port

説明 : Zabbix データベースへの接続ポート番号

デフォルト値 : 3306

設定例 : zabbix_db_port=3306

11) zabbix_db_socket

説明 : MySQL ソケットファイルのフルパス

デフォルト値 : /var/lib/mysql/mysql.sock

設定例 : zabbix_db_socket=/var/lib/mysql/mysql.sock

12) zabbix_server_host

説明 : zabbix_server 稼働サーバのホストアドレス (DNS,IPv4,IPv6 指定が可能)

デフォルト値 : localhost

設定例 : zabbix_server_host=localhost

1 3) zabbix_server_port

説明 : zabbix_server の接続ポート番号

デフォルト値 : 10051

設定例 : zabbix_server_port=10051

1 4) zabbix_web_url

説明 : zabbix 用 Web インタフェイスが稼働している URL アドレス

デフォルト値 : http://localhost/zabbix/

設定例 : zabbix_web_url=http://localhost/zabbix/

免責事項

- 本書に記載された情報は予告なしに変更、削除される場合があります。最新のものをご確認ください。
- 本書に記載された情報は、全て慎重に作成され、記載されていますが、本書をもって、その妥当性や正確性についていかなる種類の保証もするものではありません。
- 本書に含まれた誤りに起因して、本書の利用者に生じた損害については、サイオステクノロジー株式会社は一切の責任を負うものではありません。
- 第三者による本書の記載事項の変更、削除、ホームページ及び本書等に対する不正なアクセス、その他第三者の行為により本書の利用者に応じた一切の損害について、サイオステクノロジー株式会社は一切の責任を負うものではありません。
- システム障害などの原因によりメールフォームからのお問い合わせが届かず、または延着する場合がありますので、あらかじめご了承ください。お問い合わせの不着及び延着に関し、サイオステクノロジー株式会社は一切の責任を負うものではありません。

【著作権】

本書に記載されているコンテンツ(情報・資料・画像等種類を問わず)に関する知的財産権は、サイオステクノロジー株式会社に帰属します。その全部、一部を問わず、サイオステクノロジー株式会社の許可なく本書を複製、転用、公衆への送信、販売、翻案その他の二次利用をすることはいずれも禁止されません。またコンテンツの改変、削除についても一切認められません。

本書では、製品名、ロゴなど、他社が保有する商標もしくは登録商標を使用しています。

サイオステクノロジー株式会社

住所：〒106-0047

東京都港区南麻布 2 丁目 12-3 サイオスビル

電話：03-6401-5161

FAX：03-6401-5162

URL：<http://www.sios.com>